令和6年6月4日　朝日新聞

＜皆野高校体育祭に参加＞

1～3年生が皆野高校の体育祭に参加し、高校生と交流できました。

朝日新聞　13版

交流種目の後、高校生だけの種目も盛り上がった＝いずれも皆野高校

みなの力合わせ「最高の体育祭」

来年度末に閉校・皆野高で開催

教員や地域がサポート 小学生・卒業生参加も

どの種目でも生徒・児童から笑顔がこぼれた

来年度末に閉校する県立皆野高校で3日、体育祭が開かれた。在校生は2年生29人、3年生20人の計49人。皆高の最後の世代のために教員や町役場の職員、地域の大人たちがサポートし、にぎやかな体育祭になった。

「名前を見つけてダッシュ」「パートナーと玉入れ」「みんなで大玉運び」……。前半の種目をみると、高校生らしくないものばかり。これらは町内の国神小学校の全児童51人と三沢小学校の1～3年8人との交流種目だ。高校生と小学生が一緒になって懸命に走り回る姿を大人たちは優しく見守った。

皆野高校は1966（昭和41）年度に組合立秩父東高校皆野分校としてスタートした。89（平成元）年度の713人をピークに生徒数は年々減り、2022年秋、秩父高校と26年度に統合することが決まった。昨年度は新1年生の募集を停止し、例年通り学校行事ができるかどうかが危ぶまれていた。

そこで教員が動き出す。人数が少なくて体育祭が開けないという事態にならないよう、「み（ん）なの高校会議」という組織をつくり、生徒、町職員、地域住民、同窓会などと一緒に知恵を出し合った。

この日は前日の雨の影響などから会場は体育館になった。午前9時過ぎに小学生との交流種目が始まり、その後、綱引きや学年対抗リレーなど定番種目に移った。同窓会からは若手の卒業生21人が参加し、一緒に盛り上げた。

「いい体育祭になった」と浅見和義校長が感謝の言葉を述べると、生徒会長の小池誉比人（よひと）さん（3年）も「最高の体育祭になった。関わっていただいた全員に感謝です」と笑顔をみせた。

「高校会議」の来年度の目標は「『人数が少ないからこそできる』に挑戦する」。11月には文化祭がある。地域の人々には足を運んでもらうだけでなく、発表や展示に参加してもらい、今の2年生のサポート役になってもらいたいと考えている。

高橋由妃さん（2年）はそうした周囲の思いに応えたいと思っている。「最後の皆高生として、みなさんに恥ずかしくない1年にしたい。一生懸命がんばりたい」

（猪瀬明博）